

巻 頭 言

紀要委員会 委員長 竹宮敏子

研究紀要の目的は、教員の専門性に沿った研究成果を公表する場の提供にあるが、それが当短期大学内での発表に止まらず、社会における関連職種の方々への啓蒙にもなり、さらに卒業生諸姉の興味を引きつけ学問的刺激にもなれば大変有意義なものとなる。

筆者は、当紀要の編集を担当している立場上、全国の最近約10年間の短期大学紀要のテーマについて通覧してみた。取り組まれている課題の多くは、授業担当科目に関連したもので、教育的内容に絞られているものが目立つ。栄養科では学生達の栄養摂取状況、食への感性、身体状況との関連が数多く見られた。中には、開学の基本理念を取り上げ、建学の趣旨について歴史的事実を含む解説を試みたものもあった。

本学の今までの紀要についてはテーマは勿論、内容も通読してみた。テーマに関しては、全国の他の短期大学と比較してほぼ同じような傾向であった。

自分が指導している学生達に向けてのアンケートを中心に解析して検討結果を考察する論文もあるが、この場合は参加する学生達へのインフォームドコンセントはどの程度になされているのかが気になった。さらに、検討結果を指導面でフィードバックされているのかについても考えるべきであろうと思う。

いずれは本学にも学会や研究会が誕生し、多くの研究者の前で多面的、多角的な討論が行われ、他の大学や短期大学からも招待講演を行い、こちらからも講演に出かけるクロス型の活発な学問研究が行われ、そこでの報告・討論内容をまとめるようになればさらに質の高い多くの論文が掲載されるようになるであろう。

現在、自発的な投稿で1冊分になる論文数が集まっていることは喜ばしく思っている。今後もその姿勢が続くことを願う。

2005（平成17）年2月